

第 16 回 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録 (案)

日 時 令和 3 年 3 月 12 日 (金) 10 時 00 分～11 時 55 分
場 所 オンライン (Zoom 会議)
出 席 者 古原 忠, 大橋 直樹, 加藤 一実, 垣花 真人, 東野 雅彦, 岸 輝雄,
山田光太郎, 須佐 匡裕, 中島 章 の各委員
所内出席者 神谷 利夫 (フロンティア材料研究所 所長)
東 正樹 (フロンティア材料研究所 副所長)
原 亨和 (フロンティア材料研究所 副所長)
真島 豊 (フロンティア材料研究所 教授)
川路 均 (フロンティア材料研究所 教授)
河野 進 (フロンティア材料研究所/未来産業技術研究所 教授)

配付資料

- 別紙 1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会委員名簿
別紙 2. 第 15 回東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会[書面審議]議事要録 (案)

資 料

- 1-1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程
- 1-2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点共同研究委員会内規
2. 研究組織図
- 3-1. 令和 2 年度教員人事異動一覧
- 3-2. フロンティア材料研究所教員組織 (2021 年 3 月 1 日現在)
- 4-1. 2019 年度研究所決算額について
- 4-2. 2020 年度研究所当初予算配分表 (運営費交付金)
- 4-3. 外部資金受入状況について (2016 年度～2020 年度)
- 5-1. 共同利用研究 (2012 年度～2020 年度) 実施状況
- 5-2. 2021 年度共同利用研究申請一覧
- 5-3. 令和 3 年度 (2021 年度) 概算要求事項の概要「先端無機材料共同研究拠点の機能強化」
- 6-1. 本研究所における研究論文などの研究業績データ
- 6-2. セミナー・シンポジウム等開催状況
- 6-3. 令和 2 年度学術講演講師一覧
- 6-4. フロンティア材料研究所受賞者一覧
- 6-5. 2020 年度パブリシティー
- 6-6. 研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移
- 6-7. 特許出願・登録状況一覧
- 7-1. 6 大学連携プロジェクトニュース (2020. 8)
- 7-2. 6 大学研究所連携 学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト令和 2 年度報告
8. 令和 3 年度概算要求事項の概要「国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト-DEJI²MA プロジェクト-

配付冊子

- 科学技術創成研究院パンフレット
- フロンティア材料研究所パンフレット 2020
- News Letter 2020 No.9
- News Letter 2020 No.10
- 共同利用研究報告書（2019年度）

定足数の確認

運営委員総数13名，公務欠席4名，定足基準数9名，定足数5名，出席者9名で成立

委員挨拶

会議に先立ち，神谷所長より本日の欠席者を報告。

続いて，古原，大橋，加藤，垣花，東野，岸，山田，須佐，中島，東，原，川路，河野，真島，神谷所長の各員が順に挨拶を行った。

委員長の選出

神谷所長から，規則に基づき委員長を選出する必要があるため，自薦他薦を含め委員各位に意見を求めた。神谷所長から岸委員が推薦され，全員の了承を得て，委員長（議長）として選出した。

次に，岸議長から開会挨拶があり，今回の会議がZoomでのイレギュラーな開催となったことを受けて，司会・進行を神谷所長に一任したい旨の申し出があり了承された。

議事要録の確認

神谷所長から，前回の会議はコロナ拡大により書面審議としたことを含め，前回議事要録（案）について説明があり，これを承認した。

議 題

1. 規則等の一部改正について

神谷所長から，資料1-1～2に基づき，本学の事務組織の一部が令和3年4月1日に改組されることに伴い，東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程及びその下に設けられた同共同研究委員会内規が改正されること，実質的に内容に差異はない旨の説明があり，特段の意見は無くこれを承認した。

2. 研究組織について

神谷所長から，資料2に基づき，平成28年4月の東工大教育・研究改革により，共同研究拠点とフロンティア材料研究所がイコールではなくなったことを含め，共同研究拠点の成り立ちと研究所の位置付けについて説明があった。

また，平成28年以降はフロンティア研と未来研で所属が入れ違いになった教員もいるが，エフ

オートで両方の業務を兼ねることで先端無機材料共同研究拠点をフロンティア研内で設置していること、融合機能応用領域においては、金属・機械系の教員は本共同研究拠点メンバーではない旨の説明があった。

3. 教員人事・教員組織について

神谷所長から、資料3-1～2に基づき、2020年4月からの教員の異動及び今後の異動予定について、2020年度の常勤教員の異動は異例に少なかったが、来年度は新たな教員の着任が予定されている旨の説明があった。

なお、資料3-1 9行目のCHANG Tso-Fu Mark准教授が「拠点構成員」と表記されているのは誤りであるため、修正をお願いする。

4. 2019年度決算額・2020年度予算・外部資金受け入れ状況について

神谷所長から、資料4-1～3に基づき、2019年度研究所決算額について、増減の要因説明があった。

垣花委員から決算額の推移で人件費の欄が、2017年度だけ空欄となっていることについて質問があり、神谷所長から先に述べた（2. 研究組織）未来産業技術研究所とのエフォート教員（両方に所属）の給与等について、本学の事務局人事側でうまく分離集計できなかったためである旨の説明があった。

また、2020年度の予算配分はコロナの影響により、大学から法人運営費の配分を半期ごとに2回に分けて配当する方法を取ったこと、及び2018と2019の予算配分額の違い（減少）は、フロンティア材料研究所の教員数が減少したことによるものであり、それらの要因を除くとほぼ横ばいである旨の説明があった。

更に、民間との共同研究において2019年度に3年契約を結んだが、経費は一括して初年度に納付されたため、2020年度の金額が少なくなっていることについて説明があった。

5. 共同利用研究について

原委員から、資料5-1～3に基づき、2010～2020年度までの共同利用研究の採択数等の推移について説明があった。

古原委員から「コロナ下における共同研究の進め方」をどのように考えているかとの質問があり、原委員から、2020年度はコロナ禍による国内外移動禁止のため、旅費の利用が大幅に制限されたが、その未使用分研究費について、共同研究申請者が次年度に共同研究へ応募すれば繰越すことにしたとの説明があった。また、コロナ下のみならず地震災害等による緊急性の高い研究が申請された際は、機動的共同研究（流動型）により逐次採択するなどの配慮をしているとの説明があった。

垣花委員から資料5-1の「総研究者の推移」の人数には共同研究者としての学生も含まれているのかとの質問があり、支援室から学生を含むとの回答があった。

6. 2020年度の研究所活動状況について

神谷所長から、資料6-1～7に基づき、2020年度の研究所活動状況について、論文数の大幅な減少は教員の定年によるものであり旨が報告された。

また、セミナー・シンポジウム・講演会は年の初めはほぼ中止となったが、8月以降はZoomを利用したオンライン開催で行うことにより、逆に参加人数が大幅に増えたことが報告された。

7. 学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト活動報告について

真島委員から、資料7-1～2に基づき、6大学連携プロジェクトの概要について、これまでの進捗状況と名古屋大学が計画をリードしてくれていたことの説明があった。

8. 国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト-DEJI²MA プロジェクトについて

真島委員から、資料8に基づき、このプロジェクトについては、阪大接合研が主幹校となり、令和3年度は1,496万円の予算内示を受けたことについて、説明があった。

その他意見等

・垣花委員から、6-1研究論文についてフロンティア研におけるもののほかに共同研究者の成果も出してみてもどうかとの提案があり、神谷所長から今後そのようなことも検討したいとの回答があった。

・古原委員から、2017年の改組によって、フロンティア研が科学技術創成研究院の中の1研究所になったことについて、どのような利点があったのかとの質問があり、神谷所長から研究院の中で組織横断的に研究ができるようになったこと、多くのユニット・センターとも情報交換できるようになり、研究者同士で頻繁に意見交換もしており、研究者個人間では繋がりは良くなったと感じていることその他、研究院として拠点重視する姿勢であることも挙げられた。

・加藤委員から、拠点に属している研究者だけでなく、共同研究に協力した方の論文や評価も表していただいてもどうかとの意見があり、神谷所長から今後、成果の見える化に取り組んでいきたいとの回答があった。

また、昨今研究者に女性が少ないことが指摘され、本共同研究拠点においても女性限定公募を含めどのような対応を取っているかとの質問があり、神谷所長から、公募について外国人からの応募は非常に多いけれど女性は少ないこと、分野における能力を主として評価し採用する場合、女性限定公募などの状況は難しいこと、外国人の助教等は比較的多く採用されているが准教授以上は現時点では厳しいとの回答があった。一方、World Research Hub Institute (WRHI)の制度を使うことにより、外国人・女性の特任准教授は増えている。

また、神谷所長から今年度限りでフロンティア材料研究所の所長を退任すること、今後は研究者として共同研究拠点の発展に取り組みたいことの発言があり、4月から新所長として本日参加の原教授が就任することが報告された。

最後に岸議長から開会挨拶があり、委員会を終了した。

以上